

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年5月29日現在

機関番号：17701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K21552

研究課題名(和文)国際協力における心理支援ニーズと心理職活用に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Research on psychology support needs and psychology job utilization in the field of international cooperation

研究代表者

高橋 佳代 (Takahashi, Kayo)

鹿児島大学・法文教育学域臨床心理学系・准教授

研究者番号：90616468

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：国際協力を行う組織・団体の心理支援ニーズに関する現状が明らかになったことが成果としてあげられる。調査対象の半数以上が心理支援ニーズを有していることが明らかとなったが、心理職の活用実績はほとんどないことが示された。心理支援ニーズが高い領域としては「地域住民への啓発活動」を中心としたコミュニティ支援や組織を対象とした支援など心理教育的なコミュニティ支援ニーズが高いことが示された。即ち、心理支援ニーズとして、特定の疾患や対象を想定した問題解決型のサポートに対するニーズよりも、地域やコミュニティ住民の課題解決能力を育成する開発的サポートに対するニーズが高いことが示された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで臨床心理学×国際協力という枠組みでの研究はほとんど行われていなかった。本研究は、国際協力現場における心理支援ニーズの所在を明らかにする実態調査であり、国際協力分野における事業展開を考える上で有用なデータになると想定される。また、本研究はこれは心理専門職の活用の意義を広く論じるものであり、将来の発展の可能性を見据えたものである。国際協力活動においては医学的支援や物資の支援だけでなく、人と人とのやりとりがさらに重要性を増している。対象者の心理的援助を行う専門職である心理職の課題が明らかになったことで今後の心理職の活動領域の広がりやキャリアディベロップメントに寄与できると考えられる。

研究成果の概要(英文)：The outcome is the fact that the current situation regarding the psychological support needs of organizations related to international cooperation is clarified. As a result, it was revealed that more than half of the surveyed subjects have needs for psychological understanding, but it has been shown that there is almost no practical use for onsite psychologists. As areas where psychological support needs are high, it was shown that there is a high need for psycho-educational community support such as that centered on "enlightenment activities for local residents" and support for organizations. That is, it was shown that the need for developmental support for nurturing problem solving abilities of local and community residents is higher than the need for problem-solving support assuming a specific disease or subject as the driving factor for psychological support needs.

研究分野：臨床心理学

キーワード：国際協力 心理支援ニーズ 心理職活用 コミュニティアプローチ キャリアディベロップメント

1. 研究開始当初の背景

途上国が目覚ましく発展する中で心理社会的ケアに対する重要性は高まりを見せ、事件や事故後の緊急支援に限らず、通常から途上国に対し様々な心理社会支援が行われている。近年、我が国の途上国に対する開発援助においては人と人とのやりとりを通じた「人づくり」が重視されるようになってきた。すなわち、一方的な物資の支援や技術の移転を行うのではなく、相手国の人々とともにニーズを見だし、相手国の人々の主体性や内発性を引き出す心理的過程が強調されている。しかし、これまで途上国への協力活動において臨床心理学的支援ニーズがどのような分野にどの程度あるのか実態を捉える調査研究はない。さらに、現在国際協力分野において心理職がどの程度活用されているのかについての実態把握も行われていない。よって、本研究により国際協力活動における心理支援ニーズと心理職の活用実態把握を行う。心理支援に対するニーズと心理職活用に関する課題が明らかになることで、今後の心理職の活動領域の広がり、キャリアディベロップメントに寄与できると考えられる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、国際協力分活動における心理支援ニーズと心理職活用実態を調査し、その傾向や特性、課題を明らかにすることで、今後の心理職のキャリアディベロップメントに寄与することである。近年国際協力活動における心理社会的過程の重要性の高まりが指摘されている。しかし、具体的にどの分野においてどのような心理支援ニーズがあるのか、心理職がどの程度活用されているのか、明らかにされていない。よって、本研究では国際協力活動として、非政府組織が行う技術協力活動を取り上げ、途上国からの心理支援ニーズの実態と心理職活用実態を明らかにする。

3. 研究の方法

日本に拠点のある国際 NGO 約 200 団体を対象に心理社会支援プログラムの実施内容や心理職活用に関する質問紙調査を行った。質問紙の内容は、事業内容、心理社会プログラムの有無と実績および課題、心理職の活用実態に関する項目で作成した。調査方法は、国際協力 NGO センターに登録する国際協力を行う NGO に対し質問紙と返信封筒を送付し回答を求めた。また、国際協力活動で心理社会支援プログラムを持つ事業のケーススタディを行い質的な分析を行った。

4. 研究成果

日本に拠点のある国際 NGO を対象に心理支援ニーズと心理社会支援プログラムの有無、心理職活用の有無に関する現状が明らかになったことが成果としてあげられる。まず、本研究の調査対象となった国際協力事業を行う団体の支援対象をまとめると、「子ども」「女性」「被災者」など社会的に弱い立場にある人々を対象としたものが主であった。心理支援ニーズに関しては、調査対象の半数以上が心理支援ニーズを有していることが理解された。また心理支援ニーズが高い領域としては「地域住民への啓発活動」を中心としたコミュニティ支援や組織を対象とした支援など地域やある集団を対象とした支援へのニーズが高いことが示された。これらのことから、心理支援ニーズとして、特定の疾患や対象を想定した個別的な問題解決型のサポートに

に対するニーズよりも、地域やコミュニティの健康増進や生活習慣の改善を目指し対象者の課題解決能力を育成する開発的サポートに対するニーズが高いことが示された。

また調査対象の 18%の組織において何らかの心理支援事業があったが、心理職を活用している組織はなかった。心理支援業務の内容としては、心理教育的内容や知識の普及に向けた事業が主であった。以上をまとめると、国際協力分野において一定の心理支援ニーズはあるものの心理職の活用には至っていないこと、心理支援ニーズの内容としてはコミュニティや組織の健康増進を求める開発的な支援ニーズが高いことが示された。今後の国際協力分野の心理職の活用と心理職のキャリアディベロップメントのためには、文化背景が異なるクライアントを支援するための援助の視点と技法の取得が必須であるが、それとともに、様々なアプローチを総合的に実施することで、相乗的な効果を引き出すコミュニティに介入する技術や知識の涵養が重要であることが示された。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

- (1) 樹木画にみる児童養護施設入所児の発達, 臨床描画研究, 32 巻 (頁 8 ~ 18) , (査読なし) , 2017 年 06 月, 高橋佳代
- (2) 精神科心理劇のウォーミングアップ展開における監督の意図, 心理劇研究, 40 巻 (頁 43 ~ 55) , (査読あり) , 2017 年 02 月, 伊地知 悠紀・高橋 佳代
- (3) 児童養護施設中高生の時間的展望と生活充実感, 子どもの虐待とネグレクト, 18 巻 1 号 (頁 72 ~ 80) , (査読あり) , 2016 年 05 月, 高橋佳代
- (4) 児童養護施設に長期入所する女子高校生に対する動作法を用いた心理的援助, 心理臨床学研究, 33 巻 3 号 (頁 299 ~ 309) , (査読あり) , 2015 年 08 月, 高橋佳代

〔学会発表〕(計 9 件)

- (1) 15th European Congress of Psychology , 2017 年 07 月 , Amsterdam, The Netherlands , Effects of corporal punishment on self-affirmation and inhibiting factors, Kayo Takahashi
- (2) 15th European Congress of Psychology , 2017 年 07 月 , Amsterdam, The Netherlands , Evaluation of scoring systems for the Baum Test, Fumika Funatsu, Kayo Takahashi
- (3) 15th European Congress of Psychology , 2017 年 07 月 , Amsterdam, The Netherlands , Difference in consciousness of acceptance of corporal punishment among students of planning to be sports coaches and child minders , Nobushi Matsushima, Kayo Takahashi
- (4) The 31st International Congress of Psychology 2016 年 07 月 , Yokohama , Effects of Dohsa-hou for Children in Residential care, Application and the effects of "Dohsa-hou" to the various kind clients , (共同) Kayo Takahashi

- (5) 10th ISPCAN Asia Pacific Regional Conference , 2015年10月 , Kuala Lumpur , Malaysia , Characteristics of Tree Drawing Test in Children Receiving Residential Care , Kayo Takahashi , Asako Tsubouchi
- (6) 10th ISPCAN Asia Pacific Regional Conference , 2015年10月 , Kuala Lumpur , Malaysia , Correlations between Body Type and Life Style of Elementary School Children and Their Baum Test Results , Nobushi Matsushima , Kayo Takahashi
- (7) 10th ISPCAN Asia Pacific Regional Conference , 2015年10月 , Kuala Lumpur , Malaysia , Developmental Characteristics of the Tree Drawing Test in Childhood , Fumika Funatsu , Kayo Takahashi ,

〔図書〕(計 1 件)

- (1) 日本語 , 教育と医学 , 慶応義塾大学出版会 , 2015年10月 , 高橋佳代
社会的養護における思春期の衝動性の理解と対応 , 分担執筆

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
出願年 :
国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称 :
発明者 :
権利者 :
種類 :
番号 :
取得年 :
国内外の別 :

〔その他〕

ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者 なし

(2)研究協力者

研究協力者氏名 : 小澤永治

ローマ字氏名 : Ozawa Eiji

研究協力者氏名 : 舩津 文香

ローマ字氏名 : Funatsu Fumica

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。